

なかの・こういち 1970年生まれ。東京大学文学部哲学科および英国オックスフォード大学哲学・政治コース卒業、米国プリンストン大学政治学研究科で博士号(政治学)を取得。その後、フランス・パリ政治学院客員研究員、英国オックスフォード大学ナフィールド校研究生、東京大学社会科学研究所外国人研究生を経て、現在、上智大学国際教養学部教授、同学部長に至る。専門は比較政治学、日本政治、政治思想。著書は「右傾化する日本政治」(岩波新書)、「戦後日本の国家保守主義―内務・自治官僚の軌跡」(岩波書店)など多数。

YouTube「Progressive! Channel」を運営。
<https://www.youtube.com/c/ProgressiveChannelKN>

今回の選挙は、予め分かっていたような結果になってしまったと思います。引き続き、議席の3分の2を改憲勢力に譲る形となりましたが、全体像の中では大きく議席が動いたわけではありません。与党・野党で言うと、両方で課題があると思います。比例区では、立民党は議席数の増減はなく現状維持で、共産党は2議席減らしています。ただ、比例区で苦戦を強いられたのは、自民党も公明党も同じで、両党とも1議席ずつ減らしています。そのため、自民党も公明党も立民党も共産党も比例でかなり苦戦したというのが実態です。

一方で、維新の会は議席を増やし、社民党は

―参院選の結果についてお聞かせください。



政府が守るべきは「国民の権利」

ロシアによるウクライナ侵攻の終わりが見えない中、中国軍による台湾周辺へ大規模な軍事演習をはじめ、中国による尖閣諸島周辺での領海侵犯、北朝鮮のミサイル開発など、平和と安定を危険にさらす行為を背景に、日本国憲法第9条の改正が必要だという声が上がっている。安倍晋三元首相が凶弾を受けて逝去する状況の下、7月10日に第26回参議院通常選挙の投票が行われ、いわゆる「改憲勢力」は93議席を確保し、非改選議席と合わせると177議席(参議院議員の全議席数は248名)に及んだ。自民党や日本維新の会は早期の改憲を主張し、公明党も憲法への自衛隊明記「検討」を公約とし、防衛費の増大は、今後、政治の大きな争点になるとみられる。今回の参院選の結果の分析、日本国憲法第9条・13条と我が国の平和構築についてどう考えるか、上智大学教授で国際政治学者である中野晃一氏に聞いた。(聞き手＝広報・HP部長 早坂美都)

票数を増やして議席を維持。さらに、れいわも議席を獲得、NHK党と参政党が1議席ずつ奪取しています。つまり、維新の会と少数政党が票を獲得したことが、今回の選挙の特徴だと思います。

中野 晃一

上智大学国際教養学部教授
国際政治学者

INTERVIEW

「Tick Tok」といったマーケティング手法などを駆使したカリスマ立候補者が、無党派層、若年層、これまで選挙に行かなかった人たちに食い込み、その結果、これまででは党名で投票していた人の票などが、極右やポピュリスト的な政党にも渡ったと思います。党名への投票を増やすには、党の顔として、従来の支持者を越える、訴求力のある人を擁立することを検討すべきだと思います。

次いで選挙区の方は、比例区とは異なる結果でした。比例区で成功した小政党は、ほとんど小選挙区では議席が取れていません。つまり、維新の会と少数政党が伸びたと言っても、小選挙区で勝負に出たところでは、どこどこ落としています。比例区で調子が良くても、選挙区ではそうでもなかったのが現実ではないでしょうか。

―憲法改正についてご見解を。

改憲派が3分の2の勢力を維持しましたが、私は憲法改正が必ずしも加速するとは限らないと考えています。安倍元首相亡き後、どう統率を取るのか、公明党が比例区で議席を落としている中で、憲法9条改正にどう対応するのか、そこが大きな課題です。ただし、衆参両院の議席を圧倒的に自民党、公明党、維新の会、国民党などの改憲勢力が占めており、護憲派にとっては厳しい状況は続きます。

まずは、野党が国会の場でどこまで押し戻せるのか。そのためには、国会で野党共闘を立て直していくことが大きな鍵になってくると思います。旧統一教会との関係の追求、野党合同ヒアリングといった、野党が連携して改憲勢力と対峙していくことが重要です。また、後押しする市民や社会の声が、さらに必要になってくると思います。

―憲法第13条の重要性を指摘しています。その点について教えてください。

憲法学の神様と言われた樋口陽一先生が仰っていたことに、自分なりの解釈を加えたのですが、9条と13条がお互いに支え合っていることが、非常に重要な点です。9条で「戦争放棄」と「戦力不保持」、そして「交戦権の否認」を定め、13条は「個人の尊重」「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」を定め、公共の福祉に反しない限り、最大限に尊重されることを謳っています。

政府が国の自衛権行使の根拠としているのは、「平和のうちに生存する権利」を謳う憲法前文と13条です。これらを守るために必要があれば、9条の下でも自衛権の行使が認められます。逆に言えば、13条に「生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」が最大限に尊重されると書いてあるので、そこに根拠を置かなくては自衛を正当化することができません。政府が守るべきものは「国民の権利」です。しかし、9条を改正することで、戦争になったり、あるいは戦力増強が何よりも大事という方向に転換させられてしまったりする。つまり、9条が突破されると、その段階で13条自体が成立しなくなってしまうのです。国政において、最も大切にすべき生命、自由、幸福追求の権利が、成り立たなくなってしまう。やはり9条が大事な理由、それは「13条を守るため」ということになるのです。

―ウクライナとロシアの問題、中国と台湾の問題など、日本への影響は。

日本に対する大きな影響という視点で言うと、米中対立の激化が最大の不安材料だと思います。アメリカは日本と一緒に、中国を経済と安全保障の両面から封じ込める政策を進めてきましたが、今、台湾有事を巡って緊張が高まっています。仮に東アジアで米中が対立・対決することになれば、日本が何らかの形で巻き込まれると思います。さらに、国内ではその緊張を利用する動きがあるので、そこも非常に心配なところだと思います。

―ご専門の国際政治について。

■書籍プレゼント 会員5名様限定

今回、インタビューでご紹介させていただきました中野晃一さんのサイン入りの著書『右傾化する日本政治』を会員5名様にプレゼントさせていただきます(お1人につき1冊まで)。ご希望の会員は、官製はがきに「9月号 書籍プレゼント」と明記し、必ず以下の4点を記入のうえ、協会プレゼント係までご応募ください(複数応募不可)。応募締め切りは9月21日(火)です(消印有効)。当選発表は、書籍発送をもって代えさせていただきます。

【応募はがき記載事項】

①氏名 ②会員番号 ③電話番号 ④住所
応募送付先 〒169-0075 新宿区高田馬場1-29-8
いちご高田馬場ビル6階 東京歯科保険医協会
9月号 書籍プレゼント係まで



© 岩波新書

～著書紹介～
日本は右傾化しているのか、それとも「普通の国」になろうとしているだけなのか。いったい、どちらなのか? ―政治主導のもと、寄せては返す波のように時間をかけて、日本社会の座標軸は右へ右へと推し進められていった。そのプロセスを丹念にたどりつつ、新しい右派連合とその「勝利」に直面した私たちの現在を描き出す。

13条に根拠を置かなくては自衛を正当化できない

この学問を専門としたきつかけは、幼少期に海外で暮らしたことです。幼稚園の時に2年ほどフランスにいて、一度、小学校に上がる頃に帰国。その後、小学校2・3年の終わりまで4年ほどスイスで過ごしました。70年代ですが、かなり白人社会の時代で、その中で人と人との関係や権利のこと、あるいは子ども同士とはいえ、差別やいじめなどについて、どうやって横暴なことをやめさせて、民主的で誰もが自分らしく生きていける社会を作れるのかと、子どもながらに興味を持ちました。帰国後、日本社会からはフランスやスイスでは感じなかった、同調圧力などを感じながら、どうすれば自由にお互いを尊重し、敬意を持ちながら生きていくことができるのか、そのような社会を作るためにはどのような制度や取り組みが必要なのかなどに興味が高まり、この道に進むことを決めました。

―歯科についてお聞かせください。

歯科医療や歯科医師は、一般的に人の暮らしとの接点が近いところにあります。口腔は食べることや話すことと深く関わっており、口腔の健康は楽しい暮らしを送ること、常に一体になっていると思います。また、誰もがいつでも歯科治療をきちんと受けられることで、子どもも健やかに成長していくことができます。そのような当たり前の生活、そして健康を支えている柱こそが、歯科医療だと思います。

―本日はありがとうございました。

―最後に大切にしている言葉を。

20年以上、上智大学で学生たちに教えますが、その中でずっと重要だと意識するようになった言葉が「リスペクト」です。あらゆる人間関係の中でリスペクトが下支えとして必要であると感じています。リスペクト(=respect)の「re」には「再び」とか「また」などの意味があり、スペクト(=spect)には、スペクトル(spectrum)という言葉に通じているように、「見る」を表します。だからリスペクトには元々、「また見る」とか「振り返ってみる」といった意味があり、人と人が話す時に折り目を合わせるように、身近にいる人に再び視線を投げかけることが、その人を尊重し、リスペクトを持っている証だと思います。

我々は、それぞれ個性があつて、違っていい良いと思います。物事の感じ方や体験が違つたため、意見が必ずしも一致する訳ではありません。だからこそ、我々の生活や社会が豊かになっているのだとすると、もう一回お互いに目を合わせる心がけが、すごく大事なのではないかとと思うのです。それができないと、いろいろな関係が壊れ、殺伐とした社会になると思います。目を合わせて話し合うことができるかどうかが大切だと思っています。